



特集 座談会「地域通貨」

平成14年7月30日 岩手県立大学・学生食堂

# 「地域通貨」に絆と活性化を求めて

きずな

NPOや各種地域団体が、コミュニティの活性化や社会的な問題の解決のために発行する「地域通貨」が注目を集めている。今回は岩手経済研究所の谷藤さんをお迎えし、県内に先駆けて県立大学で立ちあげられた二つのグループのメンバーとともに、地域通貨に託した抱負を大いに語ってもらった。

出席者 谷藤 邦基

財団法人岩手経済研究所主任研究員(総合政策学部非常勤講師)

大和久 ひかり

岩手県立大学地域通貨研究会 総合政策学部四年

瀬川 美奈

岩手県立大学地域通貨研究会 総合政策学部二年

鈴村 圭史

シネマストリートプロジェクト ソフトウェア情報学部四年

千葉 順子

シネマストリートプロジェクト ソフトウェア情報学部四年

総合政策学部助教

## きっかけと活動内容

吉野 「地域通貨研究会」はいつ頃、どんな感じではじめたのですか。

大和久 発足は昨年の十二月です。地域通貨について知りたいということで、二十人くらいで研究会を立ち上げ、勉強会を五回ほど行いました。大学の中でこういう地域通貨が実際に流通可能なものについて話し合え、今の形をみながら決め、通帳を使って取引をしました。四月末日から七月末日まで三カ月やりました。

吉野 地域通貨についてはどこで知ったのですか。

大和久 地域通貨に出会ったのは、谷藤先生の「地域経済論」



谷藤邦基さん

の講義です。その後、谷藤先生から「エコマネー研究会」へのお話に来て、参加しました。瀬川 私は、一年の時の三月頃からです。授業の時に大和久さんたちが配ったビデオを見て、面白そうだなあと思って、友だちと一緒に入りました。

吉野 七月までの実験で、どんなことが見つかりましたか。

瀬川 最初は、友だちに勉強を教えてもらった時などに使っていたのですが、何をするにも地域通貨でやりあうようになって、ちょっと仲が悪くなりそうになったんです。それで、ひとまずホームページの掲示板を見て、市町村合併に興味があったので、その関係の情報を先輩から譲っていただきました。基本的に売ってない情報なので、でも、なかなか買ってくれないので、コンパに行ったり、本を借りたりしました。

吉野 面白いかったですか。

瀬川 参加者のほとんどが知らない人だったので、その後、話ができるようになったことは、良かったと思います。ユーザー



大和久ひかりさん

はい、八十人くらいです。大和久 私は毎日千結(ゆい)くらい使いました。車を持っていないので家の近くまで乗せていってもらったり、本を借りたり...。

吉野 「シネマストリートプロジェクト」の概要を紹介してください。

鈴村 「シネマストリートプロジェクト」は、四月二十二日の「アースデイマンデー」にちなみではじめました。その日は、アメリカで、「地球を良くしよう」とはじまった地球への感謝の日です。僕がはじめるようと思ったのは、三月のはじめ頃でした。「アースデイマンデー」に関する記事を読んでいたため、学会で東京に行った時に、渋谷に寄り、

回覧行きました。吉野 紙幣の形になってますね。鈴村 予算が少ないので、少額の紙にスタンプを押し、ナンバーをつけて、不正だけは防ぐようにしています。吉野 映画館通りで交換できるお店はありますか。鈴村 はい、サービスの対象になりました。五〇〇で五十四分の割引になります。二十二日に立ち上げた時点で三店舗でしたが、今は七店舗と映画館が十四スクリーンで利用できます。吉野 はじめた時は不安だったですか。ゴミ拾いに本当に人が来るのかなとか。鈴村 地域通貨を発行する前に、僕たちだけでゴミ拾い活動を三回ほど行いました。友だちが十数人集まってくれたので、それだけでも集まればと、特に不安はなかったです。吉野 千葉さんは一回から参加したんですか。鈴村 はい、一回から参加したんです。千葉 鈴村君が「面白くない」と、地域通貨をやりたいと、地域通貨というより、ゴミ拾い活動の話が一週間くらい前にあり、手伝いはじめました。吉野 この話が来たとき、「コレは、いけるな」と思いましたか。千葉 私は「こんなんでいけるの?」と彼に詰め寄ったんです。鈴村 僕は、映画館通りの喫茶店でアルバイトをしていました。そのオーナーに、割引クーポンとして利用できないかと交渉したところ、うちだけになるかもしれないけれども「まず、やってみたら」ということで、はじめました。



瀬川美奈さん

が、鈴村君をフォローできるような友だちがいるので、楽しみながらやっています。吉野 五〇〇という「紙幣」の印刷ですが、最初からうまくいったんですか。鈴村 スタッフは、県立大生は僕を含めて四名ですが、社会人が八名くらいです。県立大のスタッフにはホームページとか紙



鈴村圭史さん

幣の印刷とか、特技を活かしてもらっています。吉野 最初は三十三名、八回やっています。今は何名くらいですか。鈴村 八回目は一番ひどくて十五名でした。当日になると、何人来るのかわからなくて、寝坊してしまったりとか、急に仕事が入ったりとか。吉野 誰が来たのかわかるの?。

鈴村 紙幣を発行する時に名前を確認しています。吉野 映画館通りで八回やると、だいぶきれいになってきた。鈴村 きれいになることはないです。ただ、僕たちがやっているのを見て減るんじゃないかというより、ゴミ拾い活動の話が一周間くらい前にあり、手伝いはじめました。吉野 この話が来たとき、「コレは、いけるな」と思いましたか。千葉 私は「こんなんでいけるの?」と彼に詰め寄ったんです。鈴村 僕は、映画館通りの喫茶店でアルバイトをしていました。そのオーナーに、割引クーポンとして利用できないかと交渉したところ、うちだけになるかもしれないけれども「まず、やってみたら」ということで、はじめました。

活動の広がり

吉野 谷藤先生、地域通貨にかかわる活動は、どんなところから出発して、今、どんな状況なのでしょう。鈴村 私どもの活動の立ち上げ時から説明します。去年の二月、当時の県企画調整課から、私に、県庁の中でエコマネーの勉強会をやってほしいと話がありました。集まったのが、県庁の企画調整課、総務生活課や環境関係の部署や商工関係。それにN.T.T.兵庫県の「宝塚エコマネー」にはN.T.T.が関わっていて、その

## 「岩手県立大学地域通貨研究会」の地域通貨 学生の交流促進のきっかけに

目的 歴史ある大学ではコミュニティの基盤がすでに存在しているが、岩手県立大学は新設大学ということもあり、コミュニティを築いていくことが難しいという面もあっています。そのために、学生同士の交流が少なく人間関係が希薄だと感じている学生が非常に多いようです。そこで私はこの問題に着目し、学生同士の交流促進のきっかけをつくる手段として地域通貨の導入を検討しました。地域通貨を利用することで、人と人のつながりを広め、深めていき、新たな人間関係をつくるきっかけになればと考えました。また、地域通貨は、まだに学問として確立していない分野であり、これを学生が率先して行うことで、今後地域通貨を導入していくコミュニティや学生に導入していくコミュニティにとって役立つような情報を提供していきたいという思いからスタートしました。

地域通貨とは何か 地域通貨の定義は特にありませんが、お互いの財(モノ)やサービス(行為)を流通させるシステムまたは媒介する貨幣を指しています。地域通貨の基本的特徴として、①限られた地域や特定のグループ内でのみ、モノやサービスと交換できる②利益が存在せず、信用創造機能がない(貯めることと意味がない)③「円」との交換性はない(「円」は信用通貨「地域通貨」は信頼通貨)などが挙げられます。

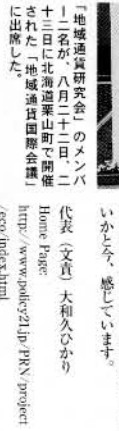
活動状況 平成十三年十二月に二十名で研究会を立ち上げ、全五回の勉強会を行いました。この勉強会で、地域通貨はコミュニティの問題を解決するため、それぞれの地域に合った形を導入しなくてはならないということを知り、私たちが独自の地域通貨を考え出しました。

平成十四年四月三十日から七月三十一日まで三ヶ月間、約八十名ほどで実験を行いました。通貨単位「結(ゆい)」は、実際の参加者同士で互いに助け合いながら地域通貨を築き使っていくという思いを採用しました。参加者事前には「できること」、「してほしいこと」とリストを事務局に提出し、事務局はこれをホームページ上に掲載します。そして、参加者はこのリストを見ながら「結」を使ってサービスやモノを交換し、この取引を通帳に記入していきます。希望結(希望価値)は各自が決め、提供者は通帳にプラスを、利用者にはマイナスを記入します。

現在では実験の報告書を作成するため、アンケート調査や分析などを行っています。導入の目的が達成されているのか、効果があったのかなどを中心に調査し、今後地域通貨を導入しようと考えているコミュニティなどで参考にしようという報告書を作成したいと考えています。また今後、この結果を様々な場で発表していきます。

最後に 現在、地域通貨は様々な場で取り上げられ、多くのコミュニティで導入されています。地域通貨は、本当にコミュニティの問題を解決する手段として有効なのか、それはまだわかりません。しかし、ただ確実に言えることは、「地域通貨」を通じて私には多くの人と出会い、一緒に一つのことをやり遂げるという経験を得ました。地域通貨の活動から生まれた「それこそ人と人のつながりだったのではないかと、感じています。

代表(文責) 大和久ひかり  
E-mail: hokke  
http://www.policylib.pkn-project/eco/index.html



「第4回地域通貨国際会議 in Kuriyama」の様子。2002/6/22-23日(木)の2泊3日、岩手県立大学山形キャンパスにて開催された「地域通貨国際会議」に出発した。



千葉順子さん

「シネマストリートプロジェクト」の活動について

「シネマストリートプロジェクト」は、今年四月二十二日より盛岡市のメインストリートのごみ拾いと地域通貨を用いた活動として始まりました。隔週土曜日に一時間の「ごみ拾い」を行い、参加した人には二百円「C」(「C」は「C」の地域通貨を発行します。その地域通貨は、このごみ拾い活動に理解していただいたお店で割引券のように利用できます。例えば、五百円のケーキセットに対して、五十円の地域通貨と四百五十円の現金で支払いができます。開始当時、三店舗の参加店から始まった活動は、現在、七店舗と映画館通りにある映画館も参加できるようになりました。これは、多くの方々のご参加、ご協力のおかげだと思っています。

「シネマストリートプロジェクト」を始めたきっかけは、去年の九月十一日の事件に始まります。私は、家でたまたまニュースを見ていました。はじめは、映画のワシンのような日常がありました。そのようなことに疑問を持ち、自分は何ができるかをずっと考えていました。そのときに地域通貨というものを知り、これを盛岡の真ん中が私らに思っていたんです。盛岡でしようと思った理由は、ここが私の暮らしている場所だからです。深く考えると、結局、自分の環境を改善することに関心をもつことだと思っています。そう考えてから、一カ月でプロジェクトを立ち上げました。ですが、現実とはとても厳しく、いろいろ勉強になりました。自分が、何に興味があるのか、何がしたいのかなどがわからないという人もいます。ですが、それは人によってはあまり簡単に見つかるものでもないと思います。私はそのような取り組んで、核心であったりします。これからは「シネマストリートプロジェクト」は続きます。プロジェクトを支えるために、サブスタックと参加者を募集しています。よかったら是非参加してみてください。

代表(文責) 鈴木圭史  
Human Page  
http://www.daiuc.ac.jp/project/

「シネマストリートプロジェクト」は、今年四月二十二日より盛岡市のメインストリートのごみ拾いと地域通貨を用いた活動として始まりました。隔週土曜日に一時間の「ごみ拾い」を行い、参加した人には二百円「C」(「C」は「C」の地域通貨を発行します。その地域通貨は、このごみ拾い活動に理解していただいたお店で割引券のように利用できます。例えば、五百円のケーキセットに対して、五十円の地域通貨と四百五十円の現金で支払いができます。開始当時、三店舗の参加店から始まった活動は、現在、七店舗と映画館通りにある映画館も参加できるようになりました。これは、多くの方々のご参加、ご協力のおかげだと思っています。



映画館通りを清掃する「シネマストリートプロジェクト」のメンバー

「シネマストリートプロジェクト」の活動について

「シネマストリートプロジェクト」は、今年四月二十二日より盛岡市のメインストリートのごみ拾いと地域通貨を用いた活動として始まりました。隔週土曜日に一時間の「ごみ拾い」を行い、参加した人には二百円「C」(「C」は「C」の地域通貨を発行します。その地域通貨は、このごみ拾い活動に理解していただいたお店で割引券のように利用できます。例えば、五百円のケーキセットに対して、五十円の地域通貨と四百五十円の現金で支払いができます。開始当時、三店舗の参加店から始まった活動は、現在、七店舗と映画館通りにある映画館も参加できるようになりました。これは、多くの方々のご参加、ご協力のおかげだと思っています。

「シネマストリートプロジェクト」を始めたきっかけは、去年の九月十一日の事件に始まります。私は、家でたまたまニュースを見ていました。はじめは、映画のワシンのような日常がありました。そのようなことに疑問を持ち、自分は何ができるかをずっと考えていました。そのときに地域通貨というものを知り、これを盛岡の真ん中が私らに思っていたんです。盛岡でしようと思った理由は、ここが私の暮らしている場所だからです。深く考えると、結局、自分の環境を改善することに関心をもつことだと思っています。そう考えてから、一カ月でプロジェクトを立ち上げました。ですが、現実とはとても厳しく、いろいろ勉強になりました。自分が、何に興味があるのか、何がしたいのかなどがわからないという人もいます。ですが、それは人によってはあまり簡単に見つかるものでもないと思います。私はそのような取り組んで、核心であったりします。これからは「シネマストリートプロジェクト」は続きます。プロジェクトを支えるために、サブスタックと参加者を募集しています。よかったら是非参加してみてください。

代表(文責) 鈴木圭史  
Human Page  
http://www.daiuc.ac.jp/project/

「シネマストリートプロジェクト」は、今年四月二十二日より盛岡市のメインストリートのごみ拾いと地域通貨を用いた活動として始まりました。隔週土曜日に一時間の「ごみ拾い」を行い、参加した人には二百円「C」(「C」は「C」の地域通貨を発行します。その地域通貨は、このごみ拾い活動に理解していただいたお店で割引券のように利用できます。例えば、五百円のケーキセットに対して、五十円の地域通貨と四百五十円の現金で支払いができます。開始当時、三店舗の参加店から始まった活動は、現在、七店舗と映画館通りにある映画館も参加できるようになりました。これは、多くの方々のご参加、ご協力のおかげだと思っています。

通じて、「ああ、あの人もやっていったんだ」というのがわかって話しかけることができるし、話す機会がなかった大学院生とか先輩たちとも。

「シネマストリートプロジェクト」は、今年四月二十二日より盛岡市のメインストリートのごみ拾いと地域通貨を用いた活動として始まりました。隔週土曜日に一時間の「ごみ拾い」を行い、参加した人には二百円「C」(「C」は「C」の地域通貨を発行します。その地域通貨は、このごみ拾い活動に理解していただいたお店で割引券のように利用できます。例えば、五百円のケーキセットに対して、五十円の地域通貨と四百五十円の現金で支払いができます。開始当時、三店舗の参加店から始まった活動は、現在、七店舗と映画館通りにある映画館も参加できるようになりました。これは、多くの方々のご参加、ご協力のおかげだと思っています。

「シネマストリートプロジェクト」を始めたきっかけは、去年の九月十一日の事件に始まります。私は、家でたまたまニュースを見ていました。はじめは、映画のワシンのような日常がありました。そのようなことに疑問を持ち、自分は何ができるかをずっと考えていました。そのときに地域通貨というものを知り、これを盛岡の真ん中が私らに思っていたんです。盛岡でしようと思った理由は、ここが私の暮らしている場所だからです。深く考えると、結局、自分の環境を改善することに関心をもつことだと思っています。そう考えてから、一カ月でプロジェクトを立ち上げました。ですが、現実とはとても厳しく、いろいろ勉強になりました。自分が、何に興味があるのか、何がしたいのかなどがわからないという人もいます。ですが、それは人によってはあまり簡単に見つかるものでもないと思います。私はそのような取り組んで、核心であったりします。これからは「シネマストリートプロジェクト」は続きます。プロジェクトを支えるために、サブスタックと参加者を募集しています。よかったら是非参加してみてください。

代表(文責) 鈴木圭史  
Human Page  
http://www.daiuc.ac.jp/project/

「シネマストリートプロジェクト」は、今年四月二十二日より盛岡市のメインストリートのごみ拾いと地域通貨を用いた活動として始まりました。隔週土曜日に一時間の「ごみ拾い」を行い、参加した人には二百円「C」(「C」は「C」の地域通貨を発行します。その地域通貨は、このごみ拾い活動に理解していただいたお店で割引券のように利用できます。例えば、五百円のケーキセットに対して、五十円の地域通貨と四百五十円の現金で支払いができます。開始当時、三店舗の参加店から始まった活動は、現在、七店舗と映画館通りにある映画館も参加できるようになりました。これは、多くの方々のご参加、ご協力のおかげだと思っています。

「シネマストリートプロジェクト」の活動について

「シネマストリートプロジェクト」は、今年四月二十二日より盛岡市のメインストリートのごみ拾いと地域通貨を用いた活動として始まりました。隔週土曜日に一時間の「ごみ拾い」を行い、参加した人には二百円「C」(「C」は「C」の地域通貨を発行します。その地域通貨は、このごみ拾い活動に理解していただいたお店で割引券のように利用できます。例えば、五百円のケーキセットに対して、五十円の地域通貨と四百五十円の現金で支払いができます。開始当時、三店舗の参加店から始まった活動は、現在、七店舗と映画館通りにある映画館も参加できるようになりました。これは、多くの方々のご参加、ご協力のおかげだと思っています。

「シネマストリートプロジェクト」を始めたきっかけは、去年の九月十一日の事件に始まります。私は、家でたまたまニュースを見ていました。はじめは、映画のワシンのような日常がありました。そのようなことに疑問を持ち、自分は何ができるかをずっと考えていました。そのときに地域通貨というものを知り、これを盛岡の真ん中が私らに思っていたんです。盛岡でしようと思った理由は、ここが私の暮らしている場所だからです。深く考えると、結局、自分の環境を改善することに関心をもつことだと思っています。そう考えてから、一カ月でプロジェクトを立ち上げました。ですが、現実とはとても厳しく、いろいろ勉強になりました。自分が、何に興味があるのか、何がしたいのかなどがわからないという人もいます。ですが、それは人によってはあまり簡単に見つかるものでもないと思います。私はそのような取り組んで、核心であったりします。これからは「シネマストリートプロジェクト」は続きます。プロジェクトを支えるために、サブスタックと参加者を募集しています。よかったら是非参加してみてください。

代表(文責) 鈴木圭史  
Human Page  
http://www.daiuc.ac.jp/project/

「シネマストリートプロジェクト」は、今年四月二十二日より盛岡市のメインストリートのごみ拾いと地域通貨を用いた活動として始まりました。隔週土曜日に一時間の「ごみ拾い」を行い、参加した人には二百円「C」(「C」は「C」の地域通貨を発行します。その地域通貨は、このごみ拾い活動に理解していただいたお店で割引券のように利用できます。例えば、五百円のケーキセットに対して、五十円の地域通貨と四百五十円の現金で支払いができます。開始当時、三店舗の参加店から始まった活動は、現在、七店舗と映画館通りにある映画館も参加できるようになりました。これは、多くの方々のご参加、ご協力のおかげだと思っています。

映画館通りを清掃する「シネマストリートプロジェクト」のメンバー

映画館通りを清掃する「シネマストリートプロジェクト」のメンバー

# ●インタビュー 政策・情報学生交流会に スタッフとして参加 佐々木泰洋さん(総合政策学部三年)



政策・情報学生交流会(以下交流会)にスタッフとして参加している佐々木泰洋さんにお話をうかがいました。

●交流会に参加するのは今回が三回目ということですが、そもそも交流会に参加するきっかけはどのようなものだったのですか。

●交流会に行ってきた先輩たちから話を聞いて……という感じですね。最初は、ただ単純に交流会の雰囲気に触れてみようというノリで参加したんですが、今改めて考えてみると、交流会への参加は自分のキャリアアップや、自分の個性を形作るいいきっかけになっているんじゃないかと思えます。

●交流会に初めて参加したときには、価値観の異なる人や初めて触れるイベントにとっても刺激を受けました。その後、自分でも県立大学内を盛り上げる活動をしたと考えるようになったんです。その一つとして、交流会のスタッフ(交流会の運営側)に伝えたいと思うようになり、交流会の魅力を学内に広げたいと思うようになり、関係や四回に行く機会が多くて経済的にも負担が多いです。でも参加者二百人規模の企画運営に携われることが幸せだし、財産になっていると思います。



佐々木さんが第16回交流会でチャーター(まとめ役)を務めた分科会の記念撮影

●県立大学内を盛り上げる活動として、今年度JAPANという組織を立ち上げ、イベントを開催したとのことですが、スタッフとしての経験が今回の成功につながっていますか。

●そうですね。交流会での経験は、新たに活動を始めるときは、とても参考になりました。特に組織の構成や、企画の進捗の点では、スタッフの経験が役に立ったと思っています。今回のイベントは、分科会を作ったそれぞれのテーマに沿って議論をするという内容で、交流会に通じるものがある企画でした。イベントへの一年生の参加者も多かったし、交流会自体に興味を持ってくれた人もいたので良かったと思っています。交流会や今回のイベントのような学内での活動が、学内の活性化につながればいいですね。



## 小特集 政策・情報学生交流会 ～参加しなきゃ～

### 政策・情報学生交流会のすすめ ～大学生活煮え切らないあなたに～

「大学に入ってはみたものの、なんか煮え切らない気分だなあ。講義にはちゃんと出席して、単位は順調だけど、家と大学の往復しなきゃいけないし。あ、夏休み。とりあえず実家に帰って……」

おこがなあ……。そんなあなたに朗報です！ 長期休暇を有意義なものとし、さらにはあなたの大学生活を変えてしまうかもしれないものが、あります。それは、政策・情報学生交流会です。



どんな人との出会いが待っているのだろうか

●政策・情報学生交流会(以下、交流会)とは、全国の政策・情報系の学部・所属する学生が集まり、様々な企画を通して交流を深めるイベントです。年に二回、夏休みと春休みに開催され、今年の夏で十七回目を迎えます。毎回二百人前後の学生が集まり、「政策・情報系の学部」に求められているもの、できることはなにか、を、改めて考え直すことを目的としています。

●交流会の中には様々な企画が用意されています。そのような交流会の一番の目玉企画は、特定のテーマに興味を持った人たちが同じ場に集まって議論を行う「分科会」と呼ばれるものです。過去には、教育や福祉、環境問題などをテーマとしたところもあれば、自分たちの就職について議論した分科会もありました。「総合政策」で結団なんだろう、という疑問を徹底的に考えたいものや、IT技術の有用性について深く話し合った分科会もありました。参加者は、事前に様々なテーマの中から自分の最も興味のある分科会を自分で選んで参加しています。同じ場所が集まってくる仲間たちと議論を重ねることで、あなたが考えることで、楽しみを得ることができ……

### 他大学生と意見をぶつけ合い 大学生生活の意味が大きく変化 || 交流会参加者の感想 ||

●今年の夏で十七回目を迎える交流会は、県立大一回です。参加したのは、県立大学の長期休暇を利用して、各大学の枠を超えて交流してきました。過去の参加者の感想を聞くと、多くの人が「参加してよかった」という答えが返ってきます。参加者を魅了する交流会ですが、参加したことのない人にとっては、何が魅力なのか、なかなかとらえにくいかもしれません。そこで、過去の参加者の感想をもとに、交流会の魅力をお伝えしようと思います。

「参加してよかった」と答えるのは、それだけ交流会に参加したことで得たものが大きいからでしょう。他大学の学生と分科会等で議論することで影響を受け、積極的に行動するようになったと答えてくれました。県立大学は他大学と交流する機会が少なく、しかも新しい大学なので、伝統から生まれる情報網もまだありません。こんな状況の中、岩手を飛び出し他大学の学生と交流することはとても刺激的なようです。特に、総合政策学部生として広い視野を得ようと思っていられる人には、大学の枠を超えて他大学生の考えを知り、自分

の考えをぶつけることができる良い機会となるでしょう。自ら行動するとか、しなやかで大学生の意味が大きく変わってきます。自分の道を切り開くきっかけを与えてくれるところが交流会の魅力なのかもしれません。またそれだけでなく、目的地に向けての旅の魅力もあるようです。飛行機、新幹線、バス、そして青春18きっぷを使った行列車など交通手段は様々ですが、その中で県立大生同士の先輩後輩との交流も生まれ、他愛もないことを語りながら行く旅も楽しみの一つでしょう。

●しかし、交流会はひとつひとつの企画の寄せ集めではありません。周りの学生と交流する場はいつでもあります。開会式で隣に座った人から始めて、最終日の懇親会の時まで、最後の懇親会まで、寝ている暇なんてありません！内気になって、遠慮してはいけません。自分からどんどん話しかけてみましょう。自分を表に出すことができる場、それが交流会なのです。あなたとはまったく異なる個性を持っている人との出会いが待っています。終了後は、速く離れた大学に数え切れないほどの友達ができていることでしょう。

#### 小特集を 編集して

●先日、交流会に参加した某大学の学生が岩手にやってきました。幹事は私ではなかったのですが、楽しい時間を過ごしたのを記憶しています。速く離れてもどこかでつながっている。今回の学生ページは、政策・情報学生交流会の特集を編んでみました。いかがでしたでしょうか。さて、新聞部は今年度から、今までのMONITOR学生ページとは別に、独自の記事を全学へ向け発行することになりました。今回の学生ページや、学内に置いてある新聞部の紙面を読んで、興味を持ったあなた！私達と紙面を作ってみませんか？部員は随時募集中です！

編集メンバー  
栗山隆志/岡本智子/菊池倫史



◆プロフィール  
法学士。科学技術庁青森原子力企画調整課事務所長、同防災環境対策室長、課長、科学技術振興事務局プラッセル事務所長などを歴任後、本学教授に就任。研究課題は科学技術と現代社会。

# NEW Intelligence

## 文部科学省から赴任 植木 勉 先生

今年の四月から、植木勉先生がわが総合政策学部教授陣に加わった。旧科学技術庁出身である先生は、防災環境対策室長、調査課長などを歴任、常に日本と世界の先端科学技術を開拓に感じ取ることのできる立場にあって、その経験を生かし、県立大では科学技術の発展と現代社会の間から発生する問題を調査分析する「科学技術政策論」を担当している。

再生医療の面から見れば、これは大いに画期的な技術だろう。問題は、ES細胞は体外受精の際に作られた受精卵を利用して、という点(「受精卵を壊して

科学技術は現在の生活を支え、未来を切り開く鍵となるもの。中でも進展著しいのが生命科学技術(バイオテクノロジー)だが、先生は「これまでの倫理や社会制度の枠に当てはまらなくなってきている」と問題点を指摘する。特に顕著なのがES細胞の研究と云う。

ES細胞を作ることは倫理上許されるのか」と、先生は疑問を投げかける。現段階では、受精卵は細胞の集合体すぎないという考え方もあれば、受精の段階で人間としてとらえるべきだとも議論が分かれ、各国政府の対応も違っている。

「一方、「現実」ができてしまわない」と、先生は受け入れざるを得ないという面もある」と先生は言う。というのも、倫理上の



問題をはらみながらも、体外受精がなされる前に始まった経緯があるからだ。ちなみに二〇〇〇年、日本では出生した赤ちゃん百人のうち一人は体外受精である。この「現実」は学生たち

「まずは現実を知り、科学技術とどう向き合っていくべきかを学生諸君と一緒に考えていきたい」と、先生はさらに意欲を燃やしている。

「まず現実を知り、科学技術とどう向き合っていくべきかを学生諸君と一緒に考えていきたい」と、先生はさらに意欲を燃やしている。

## 韓国慶尚大学校との学術交流で来学 李 時遠 先生

ワールドカップ共同開催で、より一層身近な存在となった韓国。李時遠(リー・シウウン)先生は、その韓国南部の都市、晋州(チンジン)にある慶尚大学校から、学術交流の一環として来学された。七月一日からおよそ二カ月間総合政策学部



◆プロフィール  
韓国慶尚大学校政治行政学部教授・行政学博士。現在の研究課題は高等教育財政支援方式の国際比較。「第6共和国政府政策に対する主観的評価(96年)」ほか書書・論文多数。

県立大の「実学」を高く評価

事例分析」といった著書からもうかがえるように、以前から韓国と日本の行政システムの違いに深い関心を寄せていた。「韓国行政の仕組みは、歴史的に日本からの影響を受けています。しかし現在の韓国は大統領制であり、一方の日本は議員内閣制といった具合に制度の形は違っている「違い」とはどのようなものかを確かめるため、先生は



「実学」を志向する県立大の高く評価する李先生。県立大の今後をますますの研究発展と、慶尚大学校との交流と充実を願って、八月二十八日、韓国に帰国された。

「青春の輝き」お手元  
卒業アルバム委員会

「青春の輝き」お手元  
卒業アルバム委員会



第1回スポーツ大会の様子

総合政策学部には四学部で唯一、学生による学生のための組織である自治会があります。自治会という堅苦しい名前前の組織ですが、主な活動はスポーツ大会や忘年会、雪上運動会などの企画の立案と運営です。総合政策学部はカリキュラム上、どうしても他の学部と比べて学生同士の交流が少なからずという現状。大学生活を過していく上で同じ学年や先輩後輩とのつながりが少ないというのはもったいない

学生同士の交流を活発に  
自治会の企画に参加を  
総合政策学部自治会

## 「集める」「まとめる」「蓄積する」メディアコンテンツ研究会 (MECON)

メディアコンテンツ研究会ってなんだ？  
メディアコンテンツ研究会(通称MECON:メコン)は、映像メディアを手段として学生生活と実社会を積極的に享受していくという総合政策学部の学生で構成された自主組織です。現在は6、7名ほどで活動しています。2年半前、わずか2名で活動がスタートしました。1年ぐらいい前、総合政策学部の教職員で構成される広報交流委員会が、学部の広報業務支援と教育・研究目的で使用する各種コンテンツ作成、授業・研究支援に関わる作業などを行うためにメディアラボ(総合政策学術棟103室)を設けました。それによって、これまでの業務の委託を受け、自主組織の名前を「MECON」に決めた。この研究会には「企画」が存在します。タイの「MAEKHONG(メコン)」というお酒です。活動は正直って大変です。しかし、できる範囲で一生懸命に活動に当たっていただける方々から歓迎します。何かを成し遂げたあと、一緒に「メコン」で乾杯しましょう！

に行きます。現場でカメラを回しながらさらに情報を集め、その時の一瞬を記録していきます。後日、資料や現場で取った映像をパソコンで映像編集したり画像管理をしたりするための作業を行います。そしてこれらの作業を通じて、県立大学とそこにいた学生の「当時」を写した貴重な資料を蓄積していきます。時間がたつにつれ、これら資料の価値が深まっていくことに責任と喜びがあります。その他にも、蓄積された資料を駆使してビデオ制作をしています。高校生や企業の人事に向けて学部の魅力を伝え、興味を持っていただくための「学部PRビデオ」や学部学生の思い出のページとして「卒業記念ビデオ」を制作したりしています。この作業も正直って大変ですが、使命感とやりがいはいくらもありません。

MECONの活動はサークルや部活の魅力とはまた別の魅力をもっていると思います。メディアの知識やスキルを身に付けることはもちろん、知識やスキルを習得する過程で外部のプロと接する機会を持つたり、MECONでの活動から社会との接点を見出し、いくことも重要だと思っています。この研究会には「企画」が存在します。タイの「MAEKHONG(メコン)」というお酒です。活動は正直って大変です。しかし、できる範囲で一生懸命に活動に当たっていただける方々から歓迎します。何かを成し遂げたあと、一緒に「メコン」で乾杯しましょう！



会酒のMAEKHONG

研究まっただ中

# 河川の水質汚濁と流域のしくみ

## 「現地観測から学ぶ」

豊島 正幸

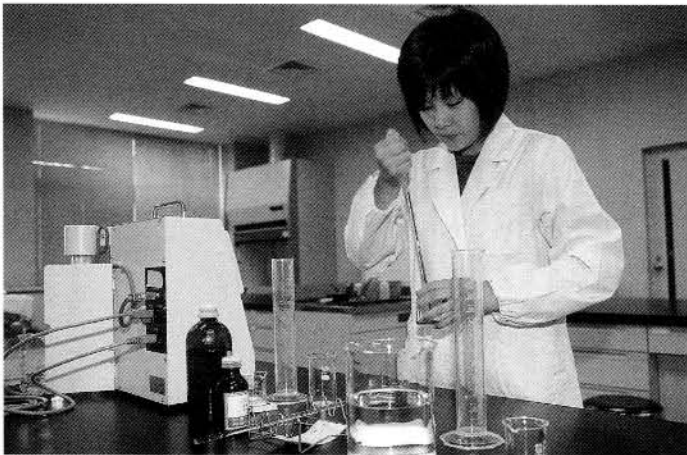
闇の中に灯りが二つ。川の水  
面を照らしてせわしく揺れる。  
時折、小雨が測器を濡らす。  
三月十日(日曜日)夜十一時。  
早朝から始めた河川水質の二十  
四時間測定も終盤に入った。一  
時間ごとに採水し、実験室に持  
ち帰り、水質を測定する。これ  
を何回も繰り返してきたのだ。  
残るはあと六回。五十歳の太台  
のつた私の体を睡眠が襲う。

菊池潤子(四年)の卒業研究  
におけるフィールドワークの一  
コマである。河川の水質が一日  
のうちでどのくらい変動するか  
を知りたい。特に生活排水によ  
る汚濁が今回の対象だ。

調査地は県立大からほど近い  
菓子川。湧水を水源とする中小  
河川であり、周囲には住宅団地  
が広がる。下水道が未整備であ  
るため、生活排水は直接菓子川  
にたれ流しされる。

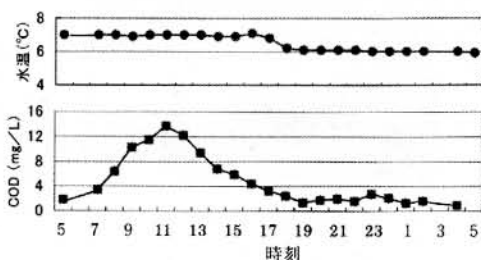
生活排水による汚濁の主な原  
因物質は「有機物」である。河  
川水中では微生物が、溶け込ん  
でいる酸素を使って有機物を盛  
んに分解する。だから有機物が  
多くなり、河川水中の酸素の量は少  
なくなり、水生生物も棲みにく  
い状態になってしまう。微生物  
が分解できるこの種の有機物の  
量はBODという指標で表わさ  
れる。

有機物の中には、この他に微  
生物が分解しにくい種類もあ  
る。人工合成された有機化合物  
や、長い自然界の営みの中でつ  
くられた土壌(黒ボク土)など  
にこの種の有機物が含まれる。  
このような分解されにくい有機  
物の量を表わす指標がCODであ  
る。一般的には、同じ試料で  
CODの方がBODより高い値  
を示すことが多い。



CODを測定する菊池潤子さん

菓子川における1日の水質と水温の変化(3月10日)



至ったのである。  
これが解決の糸口  
となった。

再度、CODの  
二十四時間測定結  
果をみてみよう  
(下図)。CODの  
値が上昇した午前  
中に水かさ(流量)  
も増したことは先  
にも述べた。流量増  
加をもたらす要因  
は、何も生活排水  
に限らない。当日  
の小雨の影響は？  
他に何かがある？  
二十四時間測定  
状況をはじめから  
思い出してみよう。

「そう言えば、地面に降った雨  
は土に浸み込む。雪解け水だっ  
てはまた浸み込む。雪解け水は  
込んだ雪解け水は土中の水を押し  
出す。その水が菓子川に流入  
する。」「土中の水は地温によっ  
て温まっているから、押し出さ  
れて川に流入すればむしろ水温  
を上げる(納得)。だから増水  
時に限って水温が7°Cと高か  
ったのだ! この増水は岸辺に  
露出した土(土壌有機物)を浸  
食した。それが河川水に多量に  
混入した結果、CODが上昇し  
たというわけだ。」

この時期を逃してはならな  
い。せかされる思いで五月十二  
日、私たちは菓子川近傍の水田  
に降り立ち、代かき直後の濁っ  
た田面水を二カ所で採水した。  
比較のため、生活排水が直接流  
れ込む側溝二カ所でも採水し  
た。

今度はCODの他に、BOD  
も測定することにした。測定結  
果は意外な事実を提供した。生  
活排水では値がCODよりBOD  
の方が高く、代かき直後の田  
面水ではその逆で、CODの方  
が著しく高い値を示したのであ  
る。

田面水では、微生物が分解で  
きる種類の有機物のほかに、そ  
の他の多様な有機物を包む土壌  
が混入するため、CODの方がB  
ODより高い値を示したと私は  
ちがは理解した。つまりCODの  
中身として「生活排水由来の有  
機物」のみならず、「土壌に由  
来する有機物」の存在にも思い

生活排水のピークがお昼に現わ  
れるんだと妙に納得したので  
あった。ところが、  
測定結果(CODの変化)の  
グラフを何度も何度も見直し  
た。次々に疑問点が浮かんでき  
ていった。「夕食時の生活排水  
はなぜ低いのか?」水温は前半が  
7°C、後半に低下して6°Cで  
推移しており(グラフ上)、食  
事やお風呂時間などは無関係  
にみえる。

これらの疑問点が解決されな  
いまま二カ月が過ぎた。菓子地  
区の田にも用水が入り、代かき  
作業が方々ではじまった。代か  
き作業も河川の水質汚濁の原因  
となる。水田の影響を調べるに

「ゆき・どけ?」そ  
うだ雪解けだ!「まてよ。雪解  
け水が菓子川に入って流量を増  
加させた場合、水温は低くなる  
はず!」でも、流量増加時(前  
半)の水温は7°Cで、後半の  
6°Cより逆に高かった。「雪解  
け水って、直接川に入るの?」  
現地観測の計画を練りはじめた。



菓子川での流量測定と採水

## プラトンの立体

プラトンの立体とは正多面体  
の別称である。正多面体とは、  
合同な正多角形を何枚か張り合  
わせた形の立体図形であり、し  
かも各頂点を同じ枚数の面が取り  
巻いているものである(右図参照)。

古代ギリシャの数学の集成で  
あるユークリッドの「幾何学原  
論」(紀元前300年頃)は全13巻  
からなる書物であるが、その第  
13巻の終結部に記されている  
のが正多面体の分類とその作図法  
に関する諸定理である。曰く、  
「正多面体は5種類しか存在しな

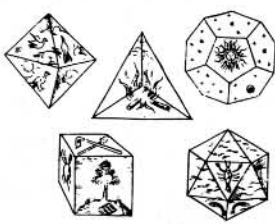
い、すなわち、正4面体、正6  
面体、正8面体、正12面体、正  
20面体、の5つに限る」と。正  
多面体は、見て感じられるとお  
り、きれいなシメトリー(=均  
整、釣り合い、対称性)を持つ  
図形である。そのようなきれ  
いな立体図形は5種類しか存在  
し得ない、というのはなかなか  
見事な定理なのではなからうか。  
数学と芸術が交差している感が  
ある。まさに「幾何学原論」の  
クライマックスとなる定理であ  
るといえる。

古代の哲学者プラトンはこの  
5つの正多面体を非常に気に入  
っており、その著「ティマイオ  
ス」の中で、4元素説による世  
界の説明に正多面体を用いた。

正4面体・正6面体・正8面  
体・正20面体は、それぞれ、  
火・土・空気・水を表わし、残  
された正12面体は全宇宙を表わ  
すと考えた。創造主(デミウル  
グス)は正多面体を用いてこの  
世界を創造したというのである。  
このような、「世界の根源は数学  
的要素から構成されている」と  
いう考え方は、いろいろと形を  
変えながら現代の数理論科学に  
連綿と引き継がれているように思  
われる。有名な「不確定性原理」  
の発見者であり、量子力学の建  
設者のひとりである物理学者ハ  
イゼンベルクは、若い頃に哲学  
に興味を持ち、「プラトンの立体」  
のアイデアにすっかり取りつか  
れてしまったそうである。

このプラトンの立体に典型的  
なシメトリー(対称性)とい  
う考え方は、現代では、図形の  
対称性を遙かに越えて、時空の  
対称性、物理法則の対称性へと  
展開されてゆき、数理論科学に  
ける最重要概念のひとつとなっ  
ている。個人的には、シメト  
リーという概念は、もっとも広  
く捉えると、何らかの意味での  
「きれいな規則性」を表わしてい  
るものと思っている。「シメト  
リー」の概念は数学と芸術の交  
叉する地点にあり、数学の諸概  
念の中でもとりわけ、多くの人  
の心を捕らえてやまないもの  
がある。「シメトリー」に興味を  
もたれた方のために、本を2冊  
ほど挙げておく。

- 「シメトリー」(ヘルマン・ヴァ  
イル、遠山啓訳、紀伊國屋書店)
- 「美の幾何学」(伏見康治・安野光  
政・中村義作、中公新書)  
(数之久作)



ケプラー「宇宙の和声」にある四元素と  
正多面体の対応図

# 新科目「総合政策入門」を振り返って

開学5年目をむかえてのカリキュラム再編の目玉として、2002年4月から、「総合政策入門」が開講された。総合政策学部において「総合政策入門」のような科目がこれまでなかったことは奇異かもしれないが、実は、なかったのである。総合政策学部の教育目的と内容については、大学ガイドブック、MONTO、その他の媒体を通して説明がなされてきた。しかし、学部名に用いられている「総合政策」とは何かという問いに対する答えはいずれも、どちらかというと、漠然としていて、イメージの域をでるものではなかった。

そこで、カリキュラム検討委員会の発案によって、「総合政策入門」という科目を開講して、教員も学生も一緒に、「総合政策」についてあらためて考えてみようということになった。学問というのは「専門化」しがちであるが、では、諸領域の「総合化」はどのようにして可能なのか。総合政策学部と称するからには、「総合とは何か」「総合政策とは何か」が明確にされなければならない。しかも、他大学の総合政策学部が提示している「総合政策」とは一線を画さなければならない。

2001年の秋から、担当予定教員を中心に「総合政策入門」について10回近い研究会が開かれ、内容の検討が行われた。議論は、「総合政策学」という学問領域がいまだに未完成であることから、「総合政策とは何か」「総合とは何か」といった根本的問題の周辺を行き来した。そして、理論や方法についての講義もさることながら、具体的事例についての分析を中心にすえて、「総合政策入門」の内容を検討することになった。

政治、経済、環境など、いずれの領域における問題も単一の領域にかぎられるのはごくまれで、多くの問題は多分野、多領域にわたり、錯綜している。問題解決のためには、あらゆる分野と領域の知識を総動員して、総合的視野と総合的思考にもとづいて考えたものでなければ、根本的な解決にはつながらない。政策が一方的であるがゆえに、知らぬ間に、別の問題を引き起こしている事例は身の回りのいたるところに見られる。総合政策が叫ばれるのもこうしたところから由来している。

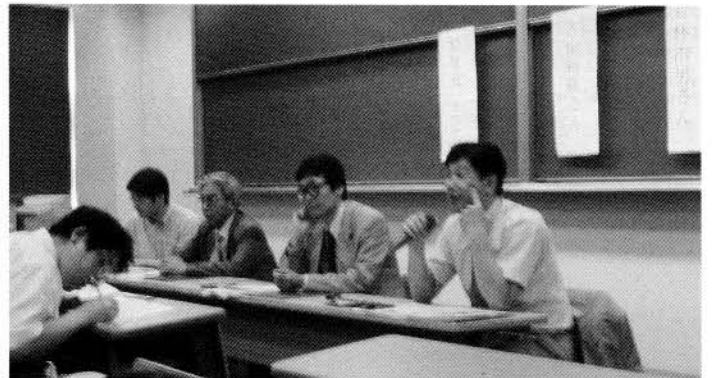
「総合政策入門」の目的は、このような認識にたつて、総合政策学部のカリキュラム全体への入門、各学問分野をつなぐ橋渡しの役割を担うこと、各問題領域において政策を考えるさいに必要な見取り図および調査・分析のためのツールの提供、そしてそれらを具体的事例の分析を通して身に付けてもらうことにある。シラバスはこのような考え方にしたがって作成された。

シラバスは、(1)総合政策の必要性、(2)問題の発見と解決、(3)問題の調査・分析の方法とツール、(4)政策とは何か、(5)事例研究①—八郎湯下拓事業、(6)事例研究②—盛岡市の都市景観、(7)事例についての検討 (8)授業評価、という構成である。各項目の担当教員を決めつつも、別の学問分野からの見方・考え方の提示によって対象を多面的にとらえるために、他の教員も参加して、学生と一体となって授業を進め

るという形をとった。

しかし、初年度の授業を振り返ってみると、枠組みがはっきりしないところで、手探りでジグソーパズルの各ピースをつなぎあわせていたために、結局、追求していたはずの「総合性」が十分とはいえず、できあがった絵柄は全体として少々いびつなものになってしまったような気がしないでもない。その点で、受講生たちが提供してくれた批判的評価は貴重である。

岩手県立大学の総合政策学部における「総合政策」の追求は、「総合政策入門」にとどまるものであってはならない。教員と学生がそれぞれの専門分野の確固とした知識を背景にもちつつ、多様な交流のなかで、協働作業として「総合政策」が追求されなければならない。そして、総合政策学部における「総合政策」の追求ははじまったばかりである。



【写真1】「事例研究 盛岡の都市景観」では、本巻の政策の「環境」と大学とをつないでいくために、「都市計画道路の拡幅工事」と「盛岡市景観の町並み保全」という対立する政策課題に「環境」を軸として、館内町内会長、盛岡市役所や若手議員の職員の方に参加していただいた。



## 新カリキュラムの特徴「総合的な視野」を養う

平成14年度入学生から適用されている新カリキュラムの特徴を一言で示せば、学生が「両コースの仕切りを超えて、多様な科目を学び、『総合的な視野』を養うことができる」ことである(平成14年3月「カリキュラム検討委員会報告」)。これが、カリキュラム改訂の方針であるが、以下、同委員会報告書にもとづいて、簡単に紹介しよう。

改訂ポイントは次の6点である。①1・2年次配当の専門基礎科目と基幹科目の見直し。②科目の年次配当の柔軟性。③学部教育充実のための科目新設。④とくに、「総合政策入門」の新設。⑤履修モデルの見直し。⑥卒業論文・研究の独立。

つまり、旧カリキュラムでは「行政・経営コース」にやや偏っていた1・2年次配当科目を是正し、かつ、環境関連科目を充実させ、一部科目の1年次履修、2年次履修を可能にさせるとともに、展開科目を2年次以降の履修とした。

そして、「環境政策論」「市民参加論」「NPO論」など15の科目を新設したが、その中でも、本学部を理解するための専門基礎科目として「総合政策入門」を新たに起した。これは、当初1年次の必修科目と考えていたが、そもそも「総合政策(学)」それ自身が学問として確立されたものとはいえず、本学部においても「総合政策」をどう捉えるか種々の議論があるので、しばらくは実験的な科目として選択科目にすることにした。ただし、「準必修」的に位置づけ、学生が履修するように履修モデル等で導くこととした。

また、学生が興味本位や漫然と履修することを選び、系統的な学習が出来るように各コースごとの履修モデルを設定し、これまで「専門演習」をベースとした学習の成果としての性格であった「卒業論文・研究」を、4年間の大学における学習の成果として明確に位置付けるために卒業単位に組み込んだ。

なお、卒業総単位数は126単位と変化はないが、全学共通科目の改訂がなされたため、2年次から3年次への進級条件と専門科目の卒業に必要な単位数の若干の見直しを行った。

時間的な制約もあって、十分な検討を成し得ないまま今後の検討課題とせざるを得なかったのが、学生の企業研修等のインターンシップの位置づけや、パソコンの実務的な技術習得をある程度めざす科目創設、学部理念の抜本的な見直しなどである。これらは、学部教育のさらなる充実のために今後の検討課題としなければならないであろう。

「研究室に居る時間が一番好きです。今の季節(取材は七月末)は、朝の六時三十分には来れています」と、つつろいで語ってくる信夫先生の前に、モリアオガエルやイリオモテヤマネコなどのミニチュアが十個ほど置かれていた。週刊の野生動物シリーズの付録という。専門は国際関係論と国際環境政策論。

岩手県立大学は開学を前にホームページで一部の人材を募った。当時、首都圏の私立短期大学で教えていた信夫先生は、環境重視の方針に共感し、メールで「先り込込だ」。面談で、総合政策学部がフィールドワークに力を入れることを知った「私は文献中心の研究、採用されるとは思わなかった」と述べた。



おじゃまします「信夫隆司助教授の研究室」の巻  
国際関係・環境を読み解く  
地域への視野と繊細な感性



現代世界は、国家を超えた共同体や宗教の存在、NGOや多国籍企業の活動を抜きにしては語れない。信夫先生は「これからの国際関係は、各国の利害(国益)調整の次元にとどまらず、全般を見渡すものの方が大切。その典型が環境問題で、次代のリーダーが担わなければならない能力を活かす持続可能な開発」と強調する。

去である。信夫先生は、これら現代国際関係を規定してきた歴史的情報も授業の中で伝えていきたいと考えている。

岩手に来て、「ハマッた」のが「松尾鉱山」の歴史。解散した会社から「松尾鉱山時報」というタブロイド新聞を、約三十年間分、ほぼ全号を譲り受けた。新聞からは、鉱山労働者とその家族のくらしぶりとも、戦時中は「満州国」に硫化鉄鉱を輸出する唯一の企業であったことなど知ることができた。地域と国策(植民地政策や環境対策など)の関係を追究する信夫先生の視野は広く、しかも十分にフィールドワークである。

夕刻にはまだ早かったが、やや酒みを帯びた外の光が研究室に差し込んでくる。信夫先生がふともらした言葉が印象に残った。「北東北のこの季節はなぜか寂しい。梅雨明けると、夏が来る前に、もう秋が来たような感じがするんです」。「テロと報復」に翻弄されながら現在の世界を思うと、この繊細な感性の持ち主が説く国際関係論、国際環境政策論がとて貴重なものと思われた。

研究室を辞する時、ドアの内側に、大のファンタジー寺井尚子「ジャストバイ」のポスターと共に、一枚の紙が貼られていた。それは、勉強したか、研究室を訪れる学生向けの機(け)きでは、なく、自分に対する戒めであると言ふ。

